



Title	初妊婦の不安とソーシャルサポートに対する自尊感情の影響
Author(s)	岩田, 銀子; IWATA, Ginko; 森谷, 絜 他
Citation	北海道大学大学院教育学研究科紀要, 99, 93-99
Issue Date	2006-09-25
DOI	<a href="https://doi.org/10.14943/b.edu.99.93">https://doi.org/10.14943/b.edu.99.93</a>
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/14787">https://hdl.handle.net/2115/14787</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	2006-99-93.pdf



# 初妊婦の不安とソーシャルサポートに対する 自尊感情の影響

岩田 銀子\* 森谷 繁\*\*

## Anxiety and Social Support in Primiparae and Self-Esteem

Ginko IWATA Kiyoshi MORIYA

【要旨】母親が子どもを育てる際、自尊感情をもつことが望ましい。本研究は自尊感情 (Self-Esteem) (以下SEとする) 得点と不安得点、ソーシャルサポート得点との間の相関を明らかにすることを目的として行われた。

北海道の中規模都市にある、保健センターの母親学級に参加した、96人の初妊婦の協力者が自記式の調査用紙に回答した。調査内容は対象者の属性、SE尺度、妊婦用不安尺度、妊婦用ソーシャルサポート尺度からなる。調査は2003年11月19日～21日に実施された。得点の集計には統計ソフトSPSSを、変数間の相関をみるためにSpearmanの順位相関係数(有意水準は0.05)を用いた。

SE総得点と不安因子の第1, 第3～6, 第8の得点との間に有意な負の相関が認められた。これらの因子は心理, 対人関係, 経済的側面および情緒的側面に関するものであった。

相関が認められなかったのは, 第2, 第7の因子で, これは身体的側面に関するものであった。

このことは, 妊娠期の女性に特有の不安が自尊感情と関係していることを示唆している。また, ソーシャルサポート総得点とSE総得点の間には相関は認められたが, SE総得点とソーシャルサポート各因子得点間には相関は認められなかった。

【キーワード】初妊婦, 自尊感情, 不安, ソーシャルサポート

### I. はじめに

急激な現代社会の変化に伴い, 女性のライフサイクルの変化や価値観の多様化が生じている。結婚しない女性, 結婚しても子どもを産まない女性, 結婚しても仕事を続ける女性等, 女性の生きる選択肢が多岐にわたっている。このような時代において, 女性が自分なりの考えを持って生きることが大切なこととなる。

特に妊娠をして母親になり, 子育てをすることにおいて, 自己に対して「これでよい」と感じる自尊感情が高いことが, この複雑な社会で適応していく重要な鍵となる。

自尊感情とは自信の上位概念であり, 自分自身を価値のある優れた存在とみる態度に伴う感

\* 北海道大学医学部保健学科 教授

\*\* 北海道大学大学院教育学研究科健康科学講座 教授

情である。たとえば、自己のさまざまな側面に関する自己評価の結果、「私は物事を人並みには、うまくやれる」と感じる人もいれば、「何かにつけて、自分は役に立たない人間だ」などと感じる人もいる。自己評価が高ければ自尊感情の上昇に、自己評価が低ければ自尊感情の低下に結びつくが、自尊感情は自己評価に比べて、ある程度永続的で変化しにくい<sup>1)</sup>。Rosenberg<sup>2)</sup>は、自己に対して「非常によい」と感じることと「これでよい」と感じる面のうち、「これでよい」と感じる程度が高いほど自尊感情が高いと考えて自尊感情尺度を作成した。その自己を肯定的にそのまま受け入れることを自己受容という。

Bibring<sup>3)</sup>は「妊娠・出産というできごとは身体的変化に始まる自己への関心や深い心理的変化を含んだ危機の時である」と捉えており、武内<sup>4)</sup>は、妊娠・出産というできごとは、女性にとっては身体的にはもちろん、心理的にも、母という新しい役割、子供との関係という新しい状況に入るというある種の緊張を伴った体験であると、述べている。母親になるということは、そこには不安、悩み、葛藤を伴うものであるが、自己に対する「これでよい」と感じる自尊感情が高いことが、これらの問題に対して対処能力をもつことができると考える。母親になり、子育てをするにはある程度の自尊感情が高いこと、すなわち自分に対して自信をもっていることが望ましいと考える。

そこで、妊婦の自尊感情<sup>5)</sup> (Self-Esteem) (以下 SE とする) が、妊娠期の不安や妊娠期の女性を取り巻くサポート等の間に関連があるのではないかと考えた。サポートと不安の関連については、著者は先の研究において関連があることを明らかにした<sup>6)</sup>。ここでは、SE 得点と不安得点<sup>7)</sup>、サポート得点<sup>8)</sup> との間には関連があることを予測し、その関連を明らかにすることを目的とする。

## II. 研究方法

- (1) 対象者は①札幌市の全 10 地区の保健センターのうち 7 地区の保健センターの協力を得て、母親学級に参加した初妊婦に母親学級終了後にアンケート調査用紙を配布した。口答で説明して了解の得られた妊婦に質問用紙を配布、郵送で回答を依頼した。配布数 144 人、回収数 96 人、有効回答数 96 人、回収率 66.7%、調査期間は平成 15 年 11 月 19 日～21 日の 3 日間。倫理的配慮として、データはすべて匿名のまま統計的に処理され、個人の回答が特定されることはなく、個人のプライバシーが侵害されることはないことを、説明した。
- (2) 調査内容は、対象者の属性、SE 尺度、STAI (X-1) 尺度<sup>9)</sup>、妊婦用不安尺度 23 項目 (先の研究で作成し、信頼性・妥当性を検証)<sup>7)</sup>、妊婦用ソーシャルサポート尺度 17 項目 (先の研究で作成し、信頼性・妥当性を検証)<sup>8)</sup> である。

## III. 測定用具

### (1) SE 尺度

SE 尺度は 10 項目の質問紙からなる 4 段階尺度であるが、著者は 5 段階尺度として用いた。SE の概念の定義については、人間は誰でも、自分自身について何らかの認識やイメージを抱いている。それが「自己概念」「自己像」と呼ばれるものであり、自己概念は個人の行動や適応様式を規定する重要な要因であるとみなされている。回答の選択肢は 5 段階尺度 (5 全くそうで

ある, 4 ややそうである, 3 少しそうである, 2 ほとんどそうでない, 1 全くそうでない)で, 得点の範囲は 10~50 となり, 得点が高いほど SE が高いことを示す。

## (2) STAI (X-1) 尺度

STAI (X-1) 尺度は, 刻々と変化する不安状態, すなわち状態不安 (Anxiety-State) (以下 X-1) と不安になりやすい性格傾向を評価する。判定法は, 20 項目の質問ごとに 4 段階の頻度 (全くちがう, いくらか, まあそうだ, その通りだ)のうちいずれかの回答を選択させ, 回答区分を得点 (20~80) 化して合算する。総得点が高いほど不安が高いことを示す。STAI (X-1) 尺度は, Spielberger, C. D<sup>9)</sup> の原板を, 水口ら<sup>10)</sup> が翻訳版として作成し, その信頼性・妥当性を検証したものである。

## (3) 妊婦用不安尺度

不安尺度は妊婦の不安を測定する 23 項目からなる著者等が作成したスケールである。回答の選択肢は 5 段階尺度 (5 全くそうである, 4 ややそうである, 3 少しそうである, 2 ほとんどそうでない, 1 全くそうでない)で, この項目についての得点は (5, 4, 3, 2, 1) である。得点の範囲は 23~115 となり, 得点が高いほど不安が高いことを示す。

## (4) 妊婦用ソーシャルサポート尺度

ソーシャルサポート尺度は妊婦のソーシャルサポートを測定する 17 項目からなる著者等が作成したスケールである。回答の選択肢は 5 段階尺度 (5 全くそうである, 4 ややそうである, 3 少しそうである, 2 ほとんどそうでない, 1 全くそうでない)で, 得点の範囲は 17~85 となり, 得点が高いほどソーシャルサポートが高いことを示す。

## IV. 解析方法

統計ソフト SPSS を用いて集計した。2 群の値の相関は Spearman の順位相関係数の検定によった。p<0.05 を有意水準とした。

## V. 結果

### 1) 対象者の背景

対象者の年齢は 30.6±4.3 (平均値±SD) であった。年齢構成は, 20 歳未満 0 人, 20~25 歳 12 人 (12.5%), 26~30 歳 37 人 (38.5%), 31~35 歳 34 人 (35.4%), 36 歳~40 歳 11 人 (11.5%), 41 歳以上 2 人 (2.1%) で 26~30 歳の占める割合が一番多かった。

各妊娠週数の対象者数は, 15 週未満 (前期) 0 人, 16~27 週 (中期) 68 人 (70.8%), 28 週以降 (末期) 28 人 (29.2%) であった。就業の有無については, 就業していないものは 78 人 (81.3%), 就業しているものは 18 人 (18.8%) であった。

### 2) 妊娠週数と SE 得点との関連については有意な関連は認められなかった。

### 3) 年齢と各尺度との関連

SE 得点と各年代別年齢との関連を見ると, SE 得点と年代別年齢との間には有意な関連は

認められなかった。

4) SE 得点の各得点の平均値を表 1 に示した。

5) SE 総得点, 不安総得点, ソーシャルサポート総得点各々の相関

SE 総得点, 不安総得点, ソーシャルサポート総得点各々の相関を見た。SE 総得点と不安総得点との相関係数は ( $r_s = -0.514$ ) ( $n = 96$ ) で負の相関が認められた ( $p < 0.01$ )。SE 総得点とソーシャルサポート総得点との相関係数は ( $r_s = 0.295$ ) ( $n = 96$ ) で正の相関が認められた ( $p < 0.05$ ) (表 2)。

6) SE 総得点と不安 8 因子得点, ソーシャルサポート各因子得点との相関

SE 総得点と不安 8 因子との相関をみると, 不安第 2 因子(経済的側面に関する不安) ( $r_s = -0.329$ ) ( $p < 0.01$ ), 不安第 3 因子(自己成長に関する不安) ( $r_s = -0.466$ ) ( $p < 0.01$ ), 不安第 4 因子(対人関係に関する不安) ( $r_s = -0.316$ ) ( $p < 0.05$ ), 不安第 5 因子(育児に関する不安) ( $r_s = -0.270$ ) ( $p < 0.05$ ), 不安第 6 因子(妊娠・出産に関する支援者に関する不安) ( $r_s = -0.303$ ) ( $p < 0.05$ ), 不安第 8 因子(相談者に関する不安) ( $r_s = -0.358$ ) ( $p < 0.01$ ) と各々負の相関が認められた。相関が認められなかった不安因子は第 2 因子(異常妊娠に対する不安), 第 7 因子(腹部増大に伴うつらさに対する不安)であった(表 3)。

次に, SE 総得点とソーシャルサポート各因子得点間の相関を見たが, 何れの因子とも相関は認められなかった。

表 1 SE 得点の平均値

n=96

SE 項目	Mean±SD
SE1	2.8±0.9
SE2	3.2±1.0
SE3	3.0±0.8
SE4	3.6±0.9
SE5	3.3±1.0
SE6	3.8±0.9
SE7	3.4±1.0
SE8	3.2±1.0
SE9	4.0±1.0
SE10	3.6±1.0

SE: Self-Esteem

SE 得点は 1 ~ 5 点の範囲で, 高得点ほど SE が高いことを示す。

「SE 項目」

1. 私はすべての点で自分に満足している。
- \* 2. 私はときどき自分がまるでだめだと思う。
3. 私は自分にはいくつかの見どころがあると思っている。
4. 私はたいいていの人がやれる程度には物事ができる。
- \* 5. 私にはあまり得意に思うことがない。
- \* 6. 私は時々, たしかに自分が役立たずだと感じる。
7. 私は少なくとも, 自分が他人と同じレベルに立つだけの価値ある人間だと思う。
- \* 8. もう少し自分を尊敬できたならばと思う。
- \* 9. いつでも自分を失敗者だと思いがちだ。
10. 私は自身に対して前向きな態度をとっている。

\* 逆転項目

表 2 SE 総得点と不安総得点, SS 総得点との相関  $n=96$ 

		不安総得点	備考		SS 総得点	備考
SE 総得点	rs	-0.514	**	rs	0.295	**

\*\*  $p < 0.01$  Spearman の順位相関係数の検定による。

SE: Self-Esteem, SS: ソーシャルサポート

rs: 順位相関係数

表 3 SE 総得点と不安因子得点との相関

 $n=96$ 

	不安因子	因子の命名	rs	
SE 総得点	不安第 1 因子	経済的側面に関する不安	-0.329	**
	不安第 2 因子	異常妊娠に関する不安	-0.156	
	不安第 3 因子	育児や母親役割への不安	-0.466	**
	不安第 4 因子	夫のサポート不足に対する不安	-0.316	**
	不安第 5 因子	育児に取られる時間の不安	-0.270	**
	不安第 6 因子	相談者に関する不安	-0.358	**
	不安第 7 因子	腹部増大に伴うつらさに対する不安	-0.099	
	不安第 8 因子	妊娠・出産の支援者に関する不安	-0.303	**

Spearman の順位相関係数の検定による。

rs: 順位相関係数

\*  $p < 0.05$  \*\*  $p < 0.01$

7) SE 得点の妥当性を明らかにするために、既に、信頼性、妥当性が認められている STAI(X-1) 得点との相関を見た。SE 得点と STAI (X-1) 得点との相関係数は ( $rs = -0.435$ ) ( $n = 96$ ) で中程度の負の相関が認められた ( $p < 0.01$ ) (表 4)。したがって、SE 得点の妥当性が認められたと考える。

## VI. 考察

Rosenberg は、自己に対して「非常によい」と感じることと「これでよい」と感じる面のうち、「これでよい」と感じる程度が高いほど自尊感情が高いと考えて自尊感情尺度を作成した。その自己を肯定的にそのまま受け入れることを自己受容という。評価対象の自己領域を「身体的自己」「精神的自己」「社会的自己」「役割的自己」「全体的自己」の 5 領域とし、①直接に受容のあり方を問う、②トータルな自己を対象とする、③生涯発達のな変化に対応できる、という 3 つの点を考慮して作成されたのが Rosenberg の自尊感情評価尺度である。

妊娠期は非妊娠時とは異なる、身体的、心理的、社会的適応が必要とされる。妊娠して初め

表 4 SE 総得点, STAI (X-1) 総得点との相関

 $n=96$ 

		STAI (X-1) 総得点	備考
SE 総得点	rs	-0.435	**

\*\*  $p < 0.01$  Spearman の順位相関係数の検定による。

SE: Self-Esteem, STAI (X-1): State-Trait Anxiety Inventory

rs: 順位相関係数

て母親になるということは、特に心理的には母親としての役割を担う自己、妻から母親になるという自己概念の再形成など、不安や気持ちのゆれ、葛藤などが生じやすいと考えられる。SE得点と不安得点との間に負の相関が中程度に認められたことは、自尊感情と不安の間には何らかの関連があると推察する。したがって、自尊感情が高ければ、妊娠期の不安や葛藤等と折り合いをつけて適応していけるということが考えられる。次に、SE得点と不安8因子個々との相関関係をみると、不安第3因子(自己成長に関する不安) ( $r_s = -0.466$ ) ( $p < 0.01$ )との相関が一番高く、次いで不安第2因子(経済的側面に関する不安) ( $r_s = -0.329$ ) ( $p < 0.01$ )であった。自己成長に関する不安の内容は「よい母親になれる自信がない」「自己の成長と育児を両立する自信がない」「育児がうまくできるか不安である」であるが、これらは、母親になる自分自身を改めて問う内容である。母親の育児に対する不安は各種の世論調査に示されているように、女性の高学歴化が進み、社会参加の気運が高まっている昨今の動向を見れば、今の母親が子育てに専念する生活環境に束縛されたまま、家事育児に生き甲斐や充実感を覚えるのは難しい時代を迎えている<sup>11)</sup>とされているように、自己成長因子と自尊感情とは関連があることが考えられる。経済的側面の不安との相関については、特に出産や育児への出費などに関係してくるところであり、経済的なことが、その人の自尊感情へ影響することは納得のいくところである。他に相関があったのは、対人関係に関する不安(第4因子)、育児に関する不安(第5因子)、妊娠・出産における支援者に関する不安(第6因子)、相談者に関する不安(第8因子)であり、各々負の相関が認められた。これらの因子は妊婦を取り巻く人間関係や環境、妊婦自身や妊婦の価値観や性格等に関する事項であり、自尊感情と関連することが推察された。関連が認められなかった不安因子は異常妊娠に対する不安(第2因子)、腹部増大に伴うつらさに対する不安(第7因子)であり、これらは身体的側面に関する因子であり、感情を因る自尊感情とは関連しなかったと考える。また、SE得点とソーシャルサポート各因子得点間には相関は認められなかったが、SE総得点とソーシャルサポート総得点間には低い正の相関が認められた。著者らの研究において、妊婦の不安がソーシャルサポートと関連があることを明らかにしたが<sup>12)</sup>、サポートがあれば不安は軽減され、さらにサポートが得られる人間関係、対処能力等は、自己の価値を高め、自尊感情を高めることに繋がると考える。このことから、妊婦の自尊感情と妊婦を取り巻くサポートとは、何らかの関連があると推察する。

## VII. 結 論

1. SE得点は妊婦用不安得点、STAI(X-1)得点との間に有意な負の相関が認められた。妊娠期の特有な不安(妊婦用不安得点)あるいは一般不安(STAI)は自尊感情と関連していることが明らかになった。
2. SE得点は不安の第1因子、第3因子、第4因子、第5因子、第6因子、第8因子と有意な負の相関が認められた。それらの因子は心理的側面、対人関係に関する側面、経済的側面に関する因子であった。相関が認められなかったのは、第2、第7因子であり身体的側面に関する因子であった。
3. また、SE得点とソーシャルサポート各因子得点間には相関は認められなかったが、SE総得点とソーシャルサポート総得点間には低い正の相関が認められたことから、妊婦の自尊感情と妊婦を取り巻くサポートとは、何らかの関連があると考える。

## [引用文献]

- 1) 菅佐和子：SE (Self-Esteem) について. 看護研究, 17, 117-123, 1984.
- 2) Rosenberg, M.: Society and the adolescent self-image. Princeton Univ. Press. 1965.
- 3) Bibring, G. L.: A study of the psychological processes in pregnancy and of the earliest mother-Child relationship, Psychoanalytic study of the child, 9-24, 1961.
- 4) 武内珠美：妊産婦が母親になるまでの心理的プロセスに関する研究, 広島大学大学院修士論文, 81, 1982.
- 5) 菅佐和子：前掲書, 117-123, 1984.
- 6) 岩田銀子, 森谷梨：初妊婦の不安とソーシャルサポート効果の検討, 北海道大学大学院教育研究科紀要, 97, 12, 57-67, 2005.
- 7) 岩田銀子：初妊婦の不安とソーシャルサポートに関する研究 — 初妊婦の不安と夫, 家族および助産師からのサポートに焦点を当てて —, 博士学位論文, 37-45, 2004.
- 8) 岩田銀子：前掲書7), 46-52, 2004.
- 9) Spielberger. C. D., Gorsuch. R. L., & Lushene. R. E.: Manual for the state trait anxiety inventory (Self-evaluation questionnaire), Consulting Psychologists Press, 2-24, Palo Alto, Calif., 1970.
- 10) 水口公信, 下仲順子, 中里克治：日本版 STAI, 三京房, 1-16, 1991.
- 11) 大日向雅美：子育てと出会うとき, 84, 2000.
- 12) 岩田銀子, 森谷梨：前掲書6), 57-67, 2005.